



教会短信

2012年6月3日

No. 45

牧師 間淵 善彦

聖書の愛（ギリシア語でアガペー）は、無償の愛、与えて見返りを求めない愛です。神はわたしたちすべての人間を罪から救うために、御自分のたった1人の御子イエスを十字架につける、ということまでして無償の愛を示してくださいました。わたしたちの救いのためには、御子の命を差し出すことを惜しまれませんでした。

人間は人に親切にしますと、無意識のうちに見返りをもとめます。自分が与えた親切に対して感謝してもらいたいという思いが働きます。ですから、このアガペーの愛は、人間が持っていない愛であります。このアガペーの愛に感動して、この愛を模範として生きているのがクリスチャンなのです。

NHKの大河ドラマ平清盛を見ていて感動するのは、父親忠盛と清盛の関係です。まったく血のつながらない親子ですが、その親子の情愛がとても美しく感じられます。男同士ですから、時にはぶつかり合い、対立します。清盛が自分の出生の秘密を知り、心がずさんで荒れ、放蕩生活している時も、清盛の行く末を心配しながら遠くから見守る父忠盛の姿がありました。血はつながらなくても心が通い合えば本当の親子になることができるのだと思いました。

わたしの知人は幼い時に父親を亡くし、父親とはどのような存在であるのかを意識し、探し求めるうちに思春期を迎えました。そして、教会に通うようになって、そこで初めて自分の父親を発見したそうです。その父親とは、自分の良い所も悪い所もすべてありのままに受け入れ、その大きな愛でその懐に包み込んでくれる神でした。いままで自分が探し求めていたものがついに見つかりました。神という父親のもとで、その人は自分の居場所を見つけ出すことができたのです。

聖書に「放蕩息子のたとえ」（ルカ福音書 15章 11～32節）があります。父親から財産を分けてもらい、家を飛び出した息子が、財産をすべて使い果たし住む所も無くします。そして、やっと自分の過ちに気づき、父親にあやまって、家の使用人の1人にでもしてもらおうと帰ってきます。すると、その息子の姿を、まだ遠くに離れていたのに、父親は見つけ、憐れに思い、走り寄って抱きかかえ、家に迎え入れます。そして、「この息子は、いなくなっていたのに見つかった」と祝宴を始めたのです。さんざん放蕩して帰って来た息子でも、父親は抱きかかえて迎え入れたのです。わたしたちは自分の罪に気づき、父なる神に立ち返る時、神は「いなくなっていたのに見つかった」と大いなる喜びを持って迎え入れてくださるのです。そこにわたしたちの本当の居場所があるのです。

母の日に寄せて

私の母は、よくこのようなことを言っていました。

20代は美しく生きなさい。30代は強く生きなさい。40代は賢く生きなさい。50代は豊かに生きなさい。60代からは感謝して生きなさい。私は今、感謝して生きる歳になりました。この歳になって、母のことを書くのは難しく思いながらも……率直に書かせていただきます。

母はミッション系の女学校に行っていたこともあって、戦時中も教会に行っていたようです。「教会は良い所よ。教会に行ってください」と母の言葉に、私は高校生の時に初めて教会に行きました。教会では日曜礼拝の時、美しいオルガンの音色で讃美歌が流れます。少しずつ牧師先生のお話も分かり、1年たってバプテスマ（洗礼）を受けました。今になってみると、母の「教会は良い所よ。教会に行ってください」の言葉にただただ感謝しています。教会での聖書の教えは甘くありません。厳しいことが多いです。聖書では、「汝の敵を愛せよ」とあります。でも、なかなか自分の敵を愛せません。しかし「愛せません」で終わるのではなく「愛そう」と努力をするのです。聖書の教えは、何よりも尊いものです。

幼いころに母から教わった讃美歌を今でも覚えています。

1 うるわしき朝も しずかなる夜も
たべもの着物も くださる神さま

2 わがママをすてて ひとびとを愛し
この日のつとめを なさしめたまえや

(教団讃美歌 454 番)

母は困っている人がいたら惜しみなく施す人でした。

弱っている人には憐れみをかける人でした。

聖書の中に「あなたの父母を敬いなさい」(出エジプト記 20:5) とあります。私は両親から多くを教わり、学びました。しかし、父母を大切にしたらどうか、と今だに悔やむ時があります。

当教会では、5月の第2日曜日の母の日は、母親だけでなく「女性の日」として、日頃の女性たちの働きに感謝する時間があります。礼拝の中で、女性たち一人ひとりに、カーネーションの花がプレゼントされ、これからの歩みのために牧師からの祈りがありました。

K. M.

聖書の言葉で磨かれた人たち

森永太一郎

神の恩寵で、町の菓子店を大メーカーに
実業家 1865～1937年

菓子メーカー森永の創業者、森永太一郎は、今も伝統のパッケージで親しまれているミルクキャラメルを生み出した人物。苦しい生活の中で、アメリカに渡り、菓子店で修業します。彼は、この時期にクリスチャンとなっています。

技術を習得して帰国し、東京に設けた小さな工場で作ったお菓子を荷車に積み、売り歩きました。その車には「イエス・キリスト、罪人を救わんために世に来たり給えり」と掲げ、信仰に根ざした商いをスタートさせました。

その後は、やはりクリスチャンが事業に加わって森永の右腕となると、町の小さな菓子工場は発展を続け、日本中に知られるメーカーへと成長しました。

晩年、彼が社長を辞する際には、会社の発展が「神の大いなる御恩寵にほかなりません」と挨拶し、彼が何を見続けてきたのかを改めて明らかにしました。

参考資料・高田文彦著『キリスト教ものしり人物伝』（健友館）

（『聖書の品格』いのちのことば社より引用）

6月17日（日） 父の日、教会では、日頃のお父様方たちのお働きを覚えて、礼拝の中で感謝の時を持ちます。

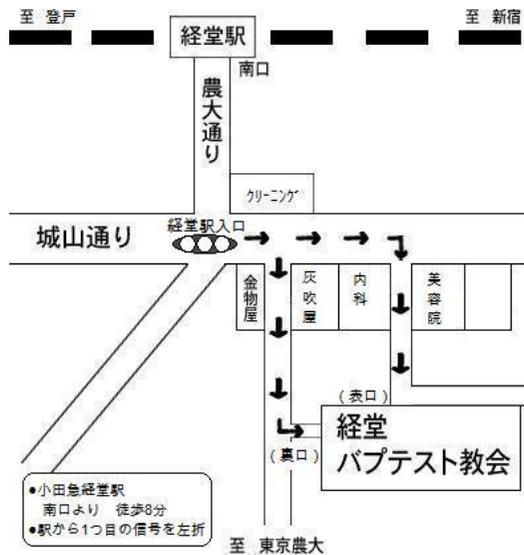
6月24日（日）－7月1日（日） 神学校週間、

7月1日（日）は神学生が礼拝のお話をいたします。

両日とも、どなたでも礼拝にいらしてください。お持ちいたしております。

日曜日は教会へ集会案内

主日礼拝	日曜日	午前10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時30分～ 2時30分
聖書研究・祈祷会	水曜日	午後 7時30分～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

※当教会はプロテスタント教会です。

エホバの証人、モルモン教、統一協会などとは異なります。